

水路部創立110周年記念論文特集の 刊行に当たって

海上保安庁水路部長 杉浦邦朗

水路部は、明治4年(1871)兵部省海軍部に水路局として設立され、本年9月12日には110周年を迎えた。これを記念して、水路部研究報告は第17号で、水路部が最近10年間に実施してきた業務に関する論文を集録することとした。

新海洋秩序・資源エネルギー事情等を背景に、最近海洋調査に対する社会的関心が高まり、その要請も複雑・多様化してきている。また、特に電子技術の進歩に伴い、調査の手法・機器にも大きな変革がもたらされている。こうした情勢の下で、水路部はこの10年間に、従来からの事業に、海洋測地観測・マラッカーシンガポール海峡調査・海洋汚染調査等の調査・観測を加え、海の基本図調査を更に充実させた。また、他機関との共同研究も含め、地震予知に関する諸研究・海底火山噴火予知に関する研究及び調査・黒潮の開発利用調査研究・人工衛星データ利用実証総合研究・自動観測システムの研究・人工衛星の画像解析手法の研究等、数十項にのぼる多くの研究業務を実施してきた。

これらの調査・研究を通じて得られた成果は、それぞれ成果報告書としてまとめられ、論文の一部は、本誌の前号までもその都度多数掲載されてきたが、この特集号では、次の11編を新たにまとめ、創立110周年記念論文として掲載した。すなわち、海の基本図に関しては、地形・地質・地磁気の最近の調査報告4編と、集大成としての100万分の1海底地形図と重力異常についてそれぞれ1編、海流観測からは、特筆すべき現象として5年間にわたって持続した黒潮大蛇行に関する4編、マラッカーシンガポール海峡調査の成果1編である。このほかに一般論文7編も併せて掲載した。

水路業務の遂行にとって、調査のための機器・技術の研究・開発は、調査資料や情報の収集・蓄積とともに必要不可欠なことである。このため、部内の研究・開発の総合報告書としての水路部研究報告は、内外の諸機関や研究者との情報交換をも目的として編集を行っており、一層の充実を図りたいと考えている。

水路部が、今後とも時代の要請に応じて最善の仕事を行っていくためにも、本誌を通じて皆様の一層の御指導・御支援を賜るようお願い申し上げます。

(昭和56年12月15日)